

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成26年12月26日

【四半期会計期間】 第44期第1四半期(自 平成26年8月21日 至 平成26年11月20日)

【会社名】 ケイティケイ株式会社

【英訳名】 ktk INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 青山 英生

【本店の所在の場所】 名古屋市東区泉二丁目3番3号

【電話番号】 (052)931-1881(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 木村 裕史

【最寄りの連絡場所】 名古屋市東区泉二丁目3番3号

【電話番号】 (052)931-1881(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 木村 裕史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
ケイティケイ株式会社 東京支店
(東京都大田区蒲田四丁目22番3号 住友生命蒲田ビル3F)
ケイティケイ株式会社 大阪支店
(大阪市中央区南船場一丁目13番14号 西田ビル4F)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第43期 第1四半期 連結累計期間	第44期 第1四半期 連結累計期間	第43期
	自 平成25年8月21日 至 平成25年11月20日	自 平成26年8月21日 至 平成26年11月20日	自 平成25年8月21日 至 平成26年8月20日
売上高 (千円)	4,020,812	4,035,586	18,105,881
経常利益又は経常損失() (千円)	83,960	35,560	96,586
当期純利益又は 四半期純損失() (千円)	49,882	23,425	23,694
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	41,192	1,711	61,958
純資産額 (千円)	2,454,587	2,547,993	2,557,739
総資産額 (千円)	7,835,248	8,597,113	8,626,861
1株当たり当期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失 金額() (円)	8.71	4.09	4.14
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	31.3	29.6	29.6

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第43期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第43期第1四半期連結累計期間、第44期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 当社の連結子会社である株式会社青雲クラウンでは、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当社第3四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節的変動があります。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間(平成26年8月21日～平成26年11月20日)におけるわが国経済は、7 - 9月のGDP成長率が2四半期連続の前期比マイナスとなるなど、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動が長期化することによる景気への影響が鮮明となりました。

特に個人消費の低迷が続き、また中小企業における収益改善も足踏み状態にあり、景気全体は依然として先行き不透明な状況で推移しております。

当社グループが位置するオフィス用品の分野においては、企業の経費削減の徹底により、競合間での受注を巡る価格競争は激しく、厳しい経営環境となりました。

このような状況のもと、当社グループではお客様満足の上をめざし、営業部員を中心にTS(テクニカルサービス)研修を継続的に行うことのお客様接点の強化に努め、コスト削減と環境貢献につながる提案を積極的に展開しました。

これらの結果、売上高は4,035,586千円(前年同四半期比0.4%増)となりました。営業損失は42,987千円(前年同四半期は90,347千円の営業損失)、経常損失は35,560千円(前年同四半期は83,960千円の経常損失)、四半期純損失は23,425千円(前年同四半期は49,882千円の四半期純損失)となりました。

なお、セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(サプライ事業)

当社グループの主力商品であるリサイクルトナーは子会社の株式会社アイオーテクノによる販売が順調に推移し、売上高は前年同四半期を上回りました。

OAサプライ商品は、純正インクやリパックインク、リパックリボンなどのプリンター消耗品の売上高が堅調に推移しました。

その他商品においては、当社独自のWeb購買システム「ケイティケイ はっするネット」による一般事務用品などの売上高、連結子会社である株式会社青雲クラウンの売上高がともに低調に推移しました。

これらの結果、売上高は3,992,211千円(前年同四半期比0.6%増)、セグメント損失(経常損失)は33,365千円(前年同四半期は87,780千円のセグメント損失)となりました。

なお、当四半期連結累計期間より、その他商品には新たに連結対象となった株式会社キタブツ中部の売上高が加わっております。

また、当社の連結子会社である株式会社青雲クラウンの業績は、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当社第3四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節的変動があります。

(ソリューション事業)

「@Securemail」シリーズによる売上高が増加したものの、大型SPIS - BOX案件終了などによる売上減の影響を受けました。また、技術部門の人員補強により販売管理費が増加しました。

これらの結果、売上高は43,375千円(前年同四半期比17.2%減)、セグメント損失(経常損失)は2,194千円(前年同四半期は3,820千円のセグメント利益)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ29,747千円減少し、8,597,113千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ33,155千円増加の5,695,107千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が193,905千円増加し、現金及び預金が238,314千円減少したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ62,903千円減少の2,902,006千円となりました。これは主に、無形固定資産が17,939千円、投資その他の資産が30,269千円減少したこと等によります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ96,640千円減少の5,098,554千円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が107,896千円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ76,638千円増加の950,565千円となりました。これは主に、退職給付に係る負債を114,837千円計上し、長期借入金が35,798千円減少したこと等によります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ9,745千円減少の2,547,993千円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が25,136千円増加し、四半期純損失の計上及び配当金の支払いにより利益剰余金が34,869千円減少したこと等によります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当社グループでは、サプライ事業のリサイクル新商品に関する研究開発活動を連結子会社である株式会社アイオーテクノにて行っており、当第1四半期連結累計期間の研究開発費は4,605千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年11月20日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年12月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,875,000	5,875,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株でありま す。
計	5,875,000	5,875,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年11月20日		5,875		294,675		708,475

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年11月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式152,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,721,500	57,215	
単元未満株式	普通株式 700		
発行済株式総数	5,875,000		
総株主の議決権		57,215	

(注) 1 「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の自己株式15株を含んでおります。

2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年8月20日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成26年11月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ケイティケイ株式会社	名古屋市東区泉 二丁目3番3号	152,800		152,800	2.60
計		152,800		152,800	2.60

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年8月21日から平成26年11月20日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年8月21日から平成26年11月20日まで)に係る四半期連結財務諸表について、五十鈴監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月20日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年11月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,392,495	2,154,181
受取手形及び売掛金	2,657,270	2,851,175
有価証券	21,009	21,011
商品及び製品	442,160	501,823
仕掛品	66	309
原材料及び貯蔵品	54,926	65,329
その他	99,841	105,557
貸倒引当金	5,818	4,280
流動資産合計	5,661,951	5,695,107
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,104,279	1,104,279
その他(純額)	497,386	482,691
有形固定資産合計	1,601,665	1,586,970
無形固定資産		
のれん	102,532	101,108
その他	213,421	196,906
無形固定資産合計	315,954	298,015
投資その他の資産		
その他	1,054,421	1,024,265
貸倒引当金	7,131	7,245
投資その他の資産合計	1,047,289	1,017,020
固定資産合計	2,964,909	2,902,006
資産合計	8,626,861	8,597,113

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月20日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年11月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,123,244	3,015,347
短期借入金	1,572,257	1,593,537
未払法人税等	11,162	5,601
賞与引当金	36,223	20,455
その他	452,306	463,614
流動負債合計	5,195,194	5,098,554
固定負債		
長期借入金	674,617	638,819
役員退職慰労引当金	83,471	79,977
退職給付に係る負債		114,837
その他	115,839	116,930
固定負債合計	873,927	950,565
負債合計	6,069,121	6,049,119
純資産の部		
株主資本		
資本金	294,675	294,675
資本剰余金	708,475	708,475
利益剰余金	1,544,491	1,509,622
自己株式	46,419	46,431
株主資本合計	2,501,222	2,466,340
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	56,516	81,653
その他の包括利益累計額合計	56,516	81,653
純資産合計	2,557,739	2,547,993
負債純資産合計	8,626,861	8,597,113

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年8月21日 至平成25年11月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年8月21日 至平成26年11月20日)
売上高	4,020,812	4,035,586
売上原価	3,251,068	3,226,461
売上総利益	769,744	809,125
販売費及び一般管理費	860,091	852,112
営業損失()	90,347	42,987
営業外収益		
受取利息	210	45
受取配当金	4,343	6,542
仕入割引	8,451	9,045
受取家賃	7,813	6,409
その他	3,912	3,000
営業外収益合計	24,731	25,042
営業外費用		
支払利息	5,691	5,193
売上割引	10,169	9,790
その他	2,482	2,631
営業外費用合計	18,344	17,615
経常損失()	83,960	35,560
特別利益		
保険解約益	12,198	
特別利益合計	12,198	
特別損失		
投資有価証券評価損		260
特別損失合計		260
税金等調整前四半期純損失()	71,762	35,820
法人税、住民税及び事業税	2,247	5,097
法人税等調整額	24,126	17,491
法人税等合計	21,879	12,394
少数株主損益調整前四半期純損失()	49,882	23,425
四半期純損失()	49,882	23,425

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年8月21日 至平成25年11月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年8月21日 至平成26年11月20日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	49,882	23,425
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,689	25,136
その他の包括利益合計	8,689	25,136
四半期包括利益	41,192	1,711
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	41,192	1,711
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成25年8月21日 至平成25年11月20日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成26年8月21日 至平成26年11月20日)

当社の連結子会社である株式会社青雲クラウンでは、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当社第3四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年8月21日 至平成25年11月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年8月21日 至平成26年11月20日)
減価償却費	30,803千円	32,241千円
のれんの償却額	千円	1,424千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年8月21日 至平成25年11月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月13日 定時株主総会	普通株式	11,444	2	平成25年8月20日	平成25年11月14日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年8月21日 至平成26年11月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月11日 定時株主総会	普通株式	11,444	2	平成26年8月20日	平成26年11月12日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年8月21日 至 平成25年11月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	サプライ事業	ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,968,436	52,376	4,020,812		4,020,812
セグメント間の内部売上高 又は振替高		94	94	94	
計	3,968,436	52,470	4,020,906	94	4,020,812
セグメント利益又は セグメント損失()	87,780	3,820	83,960		83,960

(注) セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を図っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年8月21日 至 平成26年11月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	サプライ事業	ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,992,211	43,375	4,035,586		4,035,586
セグメント間の内部売上高 又は振替高		94	94	94	
計	3,992,211	43,469	4,035,680	94	4,035,586
セグメント損失()	33,365	2,194	35,560		35,560

(注) セグメント損失()は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を図っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年8月21日 至平成25年11月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年8月21日 至平成26年11月20日)
1株当たり四半期純損失金額()	8円71銭	4円9銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額() (千円)	49,882	23,425
普通株主に帰属しない金額 (千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額() (千円)	49,882	23,425
普通株式の期中平均株式数 (株)	5,722,185	5,722,171

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年12月26日

ケイティケイ株式会社
取締役会 御中

五十鈴監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 太 田 豊 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 西 野 賢 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているケイティケイ株式会社の平成26年8月21日から平成27年8月20日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年8月21日から平成26年11月20日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年8月21日から平成26年11月20日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ケイティケイ株式会社及び連結子会社の平成26年11月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。